

(講演番号) 25pSB-2

## (題目/) 科学者の社会的責任の現代的課題

(所属) 東京大学大学院総合文化研究科

(氏名) 藤垣裕子

(英文題目) Social Responsibility of Scientists in Modern Society

(英文所属) Univ. of Tokyo

(英文氏名) Yuko Fujigaki

「科学者の社会的責任」の内実は時代とともに変容してきた。過去の文献レビューから、科学者共同体内部で守るべきこと（データ捏造をしないなど）と、科学者共同体の外へ知的生産物（原爆や核兵器など）が与える影響とを分け、さらに、責任という言葉にふくまれる「応答可能性、呼応可能性」という意味を考慮した上で、科学者の社会的責任論は、少なくとも以下の3つに分類できることが示唆される(藤垣, 2009)。

(1) 科学者共同体内部を律する責任 (Responsible Conduct of Research)、

(2) 製造物責任 (Responsible Products)、

(3) 市民からの問いかけへの呼応責任 (Response Ability)

2011年3月11日の東日本大震災は、このような従来の社会的責任論に対し、どのような新しい問いを突きつけたのであろうか。

### 1. 製造物責任

まず、(2)の製造物責任である。原子力施設という科学技術の生産物が起こした問題、津波に耐えられるように設計されたはずの堤防という科学技術の生産物の起こした問題、などである。これについては、災害の安全管理における「想定外」の意味、「想定」の功罪、技術への過信なども問題となる(Lakoff, 2010) 原子力安全基盤機構は2010年10月に、「電源喪失」という事態を想定したシミュレーションを行い、公開していた。つまり電源喪失は想定されていた(Predicted)。それにもかかわらず、現実の「電源喪失」を想定されておらず(Unexpected)、対応が現場で訓練されていなかった。この想定責任については、不確実性下における製造物責任として更なる考察が必要であろう。

また、釜石市では、ある防災研究者が関与し、「津波を想定」したシナリオを作成した「避難訓練」をおこなっていたが、このシナリオの想定をはるかに超えた津波だったために、避難訓練どおりに避難した人が50人以上も亡くなった。(2011年3月21日NHKクローズアップ現代：避難計画の誤算)「想定」(assumption)をしないと訓練はできないが、この「想定」が誤っていたときの専門家の責任はどう考えたらよいのだ

ろうか。想定という日本語に多義性があることにも分析が必要である。

さらに、今回の死者の 8 割は水死であると報告されている。(日経、3/25 朝刊 p30) とくに、「堤防があるから大丈夫」と考えた地域の認識の甘さが指摘されている(日経、3/22 朝刊 p18『最新の防波堤及ばず：油断あったかも』)。技術への過信と製造物責任の更なる考察が必要である。

## 2. 市民からの問いかけへの呼応責任

(3) の呼応責任も数多く散見された。これは、とくに情報流通の側面においてよく観察された。たとえば、テレビによる保安院・東京電力による記者会見の情報とウェブ上のツイッターや掲示板による情報との乖離、専門家間の意見の相違(物理学者、原子力工学者、放射線医学者間の違い、同じ専門分野の専門家による意見の相違などである。一般のひとからは、「いろんな意見があって、どれを信用してよいかかわからない」という戸惑いの声が聞かれた。情報流通が混乱していたために、海外でも「東京は廃墟となった」というような誤報道も見られた(加藤、2011)。

災害時の情報流通は、市民からの問いかけ(今どういう状況なのか?どのくらい安全あるいは危険なのか?)への応答責任として、今後も考察が必要であろう。とくに、緊急時の情報伝達、科学コミュニケーションはどうあるべきか、ということと、それに備えて通常時の科学コミュニケーションはどうあるべきか、ということに分けて論じる必要がある。

緊急時の情報伝達では、日本政府の発表は、「Disorganized knowledge」を公表したとして外国で失笑の対象となった。Organized Knowledge は、「ただ一つに定まる知識」とは異なる。幅があっても偏りのない、たとえば安全側にのみ偏っているのではない知識が必要とされると考えられる。政府は市民がパニックをおこさないようにという配慮で安全側にのみ偏った情報を流した。心配させないのが科学者の責任か、それともすべてオープンにした上で市民に選択してもらうのが責任か。これは上記呼応責任の新しい問といえるだろう。

Yuko Fujigaki and Togo Tsukahara, STS Implications of Japan's 3/11 Crisis, *East Asian Science, Technology and Society: an International Journal*, 5(3), 381-394, 2011.

藤垣裕子、科学者の社会的責任の現代的課題、*日本物理学会誌*、65(3), 172-180, 2010.

Lakoff, A. *Disaster and the Politics of Intervention*, New York: Columbia University Press, 2010